

3 熟語とその成り立ちの指導について (4年)

<p>【板書事項】</p> <p>熟語と訓読みの関係を考えよう</p> <p>「生」を使った熟語を漢字辞典で調べよう。</p> <p>生物 生き物 生体 生きがい 音読み 音読み 訓読み 訓読み</p> <p>次の言葉を熟語にしてみよう</p> <p>月の光・・・ 国の旗・・・ 鉄の橋・・・ 教える部屋・・・</p> <p>次の言葉を訓読みの言葉にしよう</p> <p>兄弟・・・ 鏡台・・・ 音波・・・ 街灯・・・</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <p>1 漢字の音読みと訓読みについて説明をする。「生物」(音読み)と「生き物」(訓読み)</p> <p>2 「生」セイという読み方を使った熟語を漢字辞典を使って調べさせる。(制限時間を設け、たくさん調べさせるとよい。実態によってポイント制にする)と意欲をもたせられる)</p> <p>3 同様に「生き」(イキ)という読み方を使った言葉を調べさせる。</p> <p>4 音読みと訓読みの関係について考えさせる。音読みを日本語の意味に合うように訓読みで読み替えることができることを理解させる。</p> <p>5 音読みは中国の発音を基にした読み方であることから「月の光」を熟語にさせる。</p> <p>6 同じような意味を表す熟語作りをさせる。</p> <p>訓読みの言葉を熟語にする。 熟語を訓読みの言葉にする。</p>		
<p>【留意点】</p> <p>「住む所」「住所」などの「住」の熟語で調べさせてもよい。音読み(意味が分かりづらい)ことがある。しかし、熟語にすると、漢字のもつ意味を理解することで文章に深みを出すことができる)と訓読み(表意文字としての漢字の意味をあてはめた読み方で意味がすぐ分かるが、送り仮名が必要になることがある)があることを指導することで、漢字そのものに意味があることを理解させたい。</p> <p>楽しく学ばせる手だてとして、ポイントを与えたり、グループに分かれて次のような活動をさせるとよい。</p> <p>(活動例)</p> <p>訓読みの言葉を熟語にさせる。 熟語を訓読みの言葉にする。</p>		